

はつかさん

第3号

発行

天津地域振興協議会
総務企画部編集委員会

印刷

米子ワークホーム

天津の歴史伝承シリーズ

No. 2 『天津の集落はどの様に変化したの?』

和名類聚抄によると、平安時代には伯耆国の西部は汗入・会見・日野の三郡にわかれていました。会見郡は美濃・蚊屋・千太・日下・細見・巨勢・会見・安曇・天万・星川・鴨部・半生の十二郷にわかれていたとされています。

出雲国風土記には、国境に手間割があったとあり、その位置については色々な見解があります。地形上から天津地区は伯耆国会見郡天万郷の一部であったと推定されます。

その後、天津地区は富田庄に入っただと思われれます。大山寺縁起によると、寛治八年(一〇九四)に「富田ノ庄司」とあり、この頃には富田庄はできていたようですが天津地区がいつ頃入ったか分かっていません。

伯耆民談記では、富田庄には後

世、三崎、寺内、天万、上安曇、清水川が入っていたとあります。しかし、伯耆志は清水川を福田庄に入れてあります。

永正十八年(一五二二)正月二十四日の山名澄之寄進状として瑞仙寺(現米子市)に残されている文書に「伯州相見郡柏尾村内」とあります。この頃には柏尾村が誕生しています。なお、相見郡の名称は古代・中世を通じて会見郡と併用されており、近世中期以降ほぼ会見郡として統一されました。



福田正八幡宮

天正十八年八月(一五九〇)の福田正八幡宮の棟札に、「伯耆国会見郡富田庄柏尾郷」とあります。この頃には富田庄内に柏尾郷ができています。郷とは大宝令の規定によると、五十戸をもって一郷とされています。一戸とは、一軒という意味ではなく戸主が統率する一家一族といったものです。

元禄十五年(一七〇二)の相見家文書に、「伯州会見郡飛田荘谷川村正八幡宮」とあります。また、文化十年三月(一八一三)の相見家文書に、「伯耆国会見郡柏尾村若宮今宮古老伝記、伯州会見郡福田庄注連頭神主相見山城正」とあります。飛田荘は富田庄と思われませんが、この百年の間に富田庄から福田庄に変わっています。

その他に阿賀庄があります。範囲は伯耆志・伯耆民談記などによると、阿賀・新庄(倭)・原・猪小路・北方とされていますが、いつ庄になったかは分かっていません。天保八年(一八三七)の長田神社棟札によると、猪小路村・北方村・原村・小原村・新庄村・阿賀村・下阿賀村は阿賀庄、清水川村・柏尾村・谷川村・坂根村・境村・大袋村・下安曇村は福田庄と呼ばれていたようです。

鳥取県は、明治四年(一八七二)八月二十九日に廃藩置県により旧鳥取藩領の旧因幡・伯耆二国と旧福本藩領の播磨国の一部を管下と

して誕生しました。しかし、明治九年八月二十一日には府県改廃により鳥根県に併合されています。その後、明治十四年九月十二日には鳥根県から一部が分立し再置されました。ちなみに、この九月十二日は平成十年より「とっとり県民の日」として制定されています。

この頃になると、各村は分村合併を行います。阿賀村が天保五年(一八三四)に阿賀村と下阿賀村に分村しています。明治十年五月(一八七七)には阿賀村・下阿賀村が合併し阿賀村に戻っています。明治十一年(一八七八)十月には坂根村・谷川村・柏尾村が合併し福成村となっています。

さらに郡の統合も行われ、明治二十九年(一八九六)三月二十九日には会見・汗入の二郡が合併して西伯郡となりました。

町村合併促進法施行に伴い、昭和三十年(一八九七)三月三十日には天津村・大国村・法勝寺村・上長田村・東長田村が合併し西伯町となりました。

平成に入ってから、天津地区にも新たな集落が加入します。平成七年四月一日にはグリーンタウン四季が、平成十四年四月一日にはフォレストタウン清水川が誕生しました。

そして、平成十八年十月一日には西伯町と会見町が合併し南部町が誕生しました。

シリーズ
集 落 紹 介
(順次紹介します)

フォレストタウン清水川

フォレストタウンは平成十二年に造成した新たな住宅地です。「フォレストタウン」とは旧建設省・林野庁の補助を受けた団地で地元の木材を利用した家づくりを目指した住宅地として、(協)レングスさんが民間として全国で初めて認定を受けて取り組まれたフォレストタウン事業です。



集 落 内 公 園 風 景

建築方法も木造在来工法による建築区域とそれ以外の工法で建築可能な区域に区分されています。南部町内はもとより米子市や県内外から引越してこられた方で構成されています。若い世代の方で、この地に家を

建て自立し定住することを決めた理由に、子供達が安心して遊べる空間や環境が気に入って選ばれた方も多いと思います。最近では、米子市内でも自転車に乗って遊んだり、鬼ごっこをして走り回ったりボール遊びができるような環境がめっきり少なくなりましたが、ここにはまだ遊びの空間も残っています。



集 落 内 公 園 風 景

現在では、世帯数も三十六世帯に増え、子供達の遊び声が響き渡り天津地区運動会や各種スポーツ大会等で大人も子供も元氣よく活躍しています。



赤ちゃん誕生などの嬉しい話等も時折舞い込んで来たりと、今のところ少子高齢化の言葉が当てはまらない年齢構成となっています。これから暖かい季節になり天気のいい時期になると、ご近所同士あるいは友人知人等を招いての賑やかなホームパーティーを楽しむ声が辺りに響き渡り、小さな公園の桜の花の下で子供達もお弁当やおやつを食べ「お花見」をしたり和やかな雰囲気になります。また、各種スポーツや文化的活動等の分野でいろいろな趣味や特技を持ち合わせた人材も揃っています。



天津地区ソフトビーチバレーボール大会優勝

新しく出来た住宅地であるため特色ある伝統的な行事や習慣も存

在りませんが、共稼ぎ・子育てといった働き盛りの責任世代が殆どで、疲れを癒したい休日に行事の少ないことが逆に魅力なのかも知れません。

現在、公民館設立のための建設費積立を実施しているところであり、近隣の清水川さんの公民館をお借りしたり、ふるさと交流センターを利用して頂きながら町内活動や交流を深めています。



今後、近未来に今の責任世代の住民が高齢化した時に元気で澁刺としたフォレスト敬老会活動の拠点となる公民館建設に向けても一歩一歩頑張っ て行きたいと考えています。とにかく、安心安全な住みよい清水川を目指して地域組織の充実と親睦を深めて行きたいと思っています。



谷川区

谷川区は、天津地域の北部に位置しており、法勝寺川沿いに耕地が一面に開け、見通しのよい水田が中心の地域です。

また、水田以外にも「いちじく」「花」「ネギ」等いろいろな物を作っています。中でもいちじくジャムは有名で、各地に幅広く出荷されていて農業の盛んな集落です。

耕地の中心地には農事組合法人福成という建物があります。農業全般の作業を一手に引き受けられており、近頃高齢化が進む中、谷川区にとっては本当に助かっています。また、農業について分からない事があれば、親切に何でも気軽に教えてもらえるおじさんやお兄さん達が働いておられます。



母塚山の麓の谷川区からは、田園の向こうの伯耆富士と称される

霊峰大山が晴れた日には特に美しく見えます。

春には農事組合法人福成周辺の田で「菜の花祭り」や、母塚山下の林道での「花見」があります。



菜の花祭りの風景

秋には福田神社の「秋祭り」があり、その前夜には「宵祭り」を神社境内で毎年行い、昨年で二十六回目になりました。

今までを振り返ってみると、空を見上げて途中で雨が降りそうな天気るときは前もってテントを張り、途中で雨が降り出したときでも何が何でも最後まで続けたことが幾度となくありました。この事は今になっても谷川区民の楽しい思い出話となり、皆が集まったときには話題になって、懐かしんでもいます。こんなに長く続いたのも谷川区の自慢の一つです。



宵祭り

準備は当日の朝から全員で舞台作りをして、夜の本番に備え夕方相見宮司さんの太鼓で開演します。谷川区には、ご存知のとおりプロ並みの音響さん・プロデューサー・司会者もおられ、谷川区に新しく入って来られた若い人達や活力のある若い後継者も出来て、皆と一緒にになり、何だかんだと言っているから楽しく和気あいあいとやっています。以前おばあさん達で結成された「パンバーズ」という芸名で演劇されたものもあり、子ども達から年寄りまで谷川区一体となって楽しくやっております。また、歌・コメント・新婚さん紹介・クイズ・区内のニュース・ふりオケ・芝オケ

等の色々な出し物があり、現在県内外で公演している「天津芝オケ研究会」の発祥は、元々谷川区の宵祭りから始まったもので、プロデューサーも谷川の人です。お酒・たこ焼き・焼きそば・おでん・おつまみ等を自分達で用意し、飲んだり食べたりで客席と舞台が一体となり賑やかに夜遅くまで楽しんでいきます。



宵祭り

この宵祭りの噂を聞き、近郊外の人も見に来られます。このたび、谷川区独自で作られる「谷川音頭」も近々発表される予定です。翌日の福田神社の「秋祭り」では、「子供輿」が谷川区内を練り歩き、神社に上がってから「くじ」が始まります。谷川区の「宵祭り」は今後もまだまだ続きます。

坂根

坂根は古代の遺跡が多く残されています。今回の集落紹介は、部落概要ではなく坂根のある遺跡に関する事を記しながら坂根の紹介といたします。

平成八年、県道の拡幅工事に伴い早里遺跡発掘調査が行われ、多くの重要な文化財が発掘され、特に我が国に前例の無い高杯が発見され、研究後貴重な資料となっています。それは、早里横穴墓より出土品です。まず横穴墓とは、人が死を迎えると墳墓に埋葬するのですが、箱式石棺の埋葬のように一遺体を入れるのではなく、複数回使用埋葬される墳墓で、西伯耆から東出雲では多く見られます。

この早里横穴墓も数回の埋葬が確認されます。構造は横穴式と呼ばれるように墳丘の斜面に横方向に穴を掘り、そこを墓として利用するものです。形は三つの部分から成り立ちます。まず表面に近い場所に前庭部のテラス状の広場があり、そこで埋葬の祭祀を行います。その奥に羨門部として高さも幅も人が一人通るのがやっとの長さ一メートル位のトンネルがあり、その入口は閉塞石の扉で閉じています。その奥の玄室と呼ばれる埋葬部に続きます。上から見ると羽子板の形になった穴です。この玄室から出土した馬具・耳環・太刀・

青玉など多くの物が発見されています。まず、馬具についてですが、今から千四百年余り昔、馬は現代で例えると高級車ロールスロイスと考えられ、これに乗れる部族の長が住んでいたのです。県内での馬具確認は僅か数例しかありません。轡や飾り金具で鉄地に金銅張りである時は眩いばかりに金色に輝いていたでしょう。又、埋葬貴人に装着されていた耳環は、当時最高の技術で作られた銀のメッキが施されています。又、太刀は長さ九十五センチの大振り直刀で、頭には卵型の鏝で鞘尻には金具が付き、全体を皮の様な物で覆っていたようです。そこにガラス玉の青い飾り物が光っていたのではと思える物も周辺から出ています。

それらは、玄室内部奥に有ったものだと思います。入口に三個の坏蓋が並んでいるのは、祭祀儀式の形のようにです。それと同じく、古代祭祀用で使用され我が国で他に例の無い赤芽柏の葉脈がはっきり押し写しされた高杯が出土しています。発見当時、新聞にも載り話題となった物です。赤芽柏は、この辺りの山では多くある木で、葉が大きく食べ物を盛るのに使用された葉です。葉そのものは一般的に使われていたが、粘土で高杯の形を作った時に葉を押し付け、跡を付けたものであり、同じ場所に朱塗りされた高杯もあり意図的に葉脈

が付けられたと考えられます。発見場所の横穴墓の前庭部です。二つとも床底部から三十センチほど上部で、故意に破られた状態でした。そのことは、埋葬後入口を石扉で塞いで土を寄せ、地固めした後、儀式を行ったものです。

ここで赤芽柏と赤塗り土器について考えると、当地の古代が見えて来ます。まず古代信仰で、赤という色は生命の色であり、高貴な色でありました。生命につながる死者の再生の色なのです。古代人は、死は神に命が召され黄泉の国に行き、再び甦ると信じられていた事は古事記にも記されているのでご存知の方も多いと思います。

大国主が八十神に騙されて、赤く焼かれた大石の下になり死亡する手間山の物語である赤猪の難も、二人の女神により蘇生します。甦ったのは貝の葉と清水の様ですが、この赤猪の赤が再生の基なのです。当地には、古い部族でアカイ族がいたと考えられ、今の赤井姓の人々はその子孫と思われる。

その他、早里のすぐ横にある坂根春日山古墳には、肉を取り去った頭蓋骨が出土しています。これは私が中学の時に近所の子供達数人で発掘した石棺に在ったものです。今でも当時の事が思い浮かびます。この赤も同じ甦りを願って施した事でしょう。

いずれにしても当地には古代出雲族に影響を与える程の大きな部族が居たと考えられます。



早里から望む伯耆富士(大山)

現在の早里は道も広く、遠くに望む大山は伯耆富士と呼ぶに相応しい姿の絶景地で、車で休憩する人も多いですが、古代は前に湖があり水を湛え、水鏡に大山を写し赤にも連なる太陽が大山の上に昇る姿は、まさに天から神が降りるよう見え、この天津が古代神話の高天原のようであったでしょう。坂根の事を紹介する事無く、古代の私達の土地をまとめましたが、それが私達の誇りとなり、伝える事が土地に愛着と希望が持て、若者が育つと思っています。天津の文字が少なくなる事の無いよう願います。

(加藤 哲英)

境

境区は天津地区の北部に位置し、県道福成戸上米子線が区の中央を縦断し、法勝寺川流域に耕地が開けている農業地帯です。

古くから農業が中心で、現在も兼業農家が六十戸です。耕地の九十パーセントは水田で、構造改善事業等を経て、米を基幹作物とし、最近では集落営農組織を中心に農地の荒廃防止、農産物の高付加価値化を目指す動きも盛んです。

一方、少子高齢化の傾向もみられ、境区の人口動態をみると、人口二百七十三、世帯数七十三、一世帯人数三・七四、〇歳から十五歳三十二名、六十五歳以上七十六名(平成二十年三月現在)です。境区の現状を紹介します。

【環境美化】



区内の中堅層を中心に、河川ボランティア団体を立ち上げ、集落の課題、現状把握等の意見交換を図りながら、寺内川の除草作業の実施、併せて今後の取り組みについて協議しています。

【防災・災害時対応】

水害対策で区の防災体制、集中豪雨時の浸水把握、町・県・国等

との連携を取り災害防止に努めています。また、定期的訓練の実施や、防犯活動も実施しています。

【敬老会】



歌、芸、世間話し有りで名残尽きない一時を過ごしました。

【文化祭】

一年おきに開催する文化祭は文化部役員の大イベントです。文化祭の為に日頃から趣味等で作成されたものを出品していただき、地元に住んでいても知らなかった特技を見ることもあり、境区民の方に生涯学習の動機付けにも良い機会となっています。

【いきいきサロン】

会食サロンタイムや、花見や紅葉観賞のバス旅行、体や気持ちのリフレッシュする健康体操、時には除草の奉仕作業、文化祭協力の出品等々。二十三名の会員が、三名の役員と一緒に楽しんでいます。

【百寿会】

今年から新会員も増えて、益々活気づいています。なお、この他に健康増進員、福

祉委員、愛の輪協力員なども活動を展開しています。

【子ども会】



境区の子ども会の活動は、も会の活動は、役員、児童の話し合いの中から奉仕作業・夏祭り・ラジオ体操・交通当番などに自主的に参加、助け合いを行

いながら、協力の大切さを知り、その中から自分達でやろうという意欲が生れてきました。そして、地域の方と一緒に、文化祭への出品や演芸祭り・敬老会への出演など、いろいろな集まりにも積極的に協力して喜ばれています。

【宇賀神社】



区的最北端 県道横(境区と大袋区の境界)に宇賀神社があります。祭神は市寸嶋姫命(弁財天)他で、七福神の中で唯一の女神で福の神

でもあります。現在の社殿は安政年間(1854-1868)に再建され、本殿の彫刻は立派なつくりで、当時鳥取藩の補助金により出来たものようです。

また、社殿内の大型絵馬は、県下最多の数で貴重なものです。年二回の例祭は、氏子により鳥居・拝殿等にしめ縄飾りをし、多くの参拝者で賑わいます。

【埋もれた史跡・石造物】

区内には、沢山の史跡・石造物があります。確認された物のみ紹介します。境嶋治三郎塚・イボ地藏(目の神さん)・石室・観音堂・三界萬霊塔・木野山さんなどです。

【境区のこれから】

昨年実施された集落づくり計画のアンケート調査結果から、課題として出てきたものは、環境整備・安全確保・歴史文化・教育・社会福祉・産業振興・集落活性化などでした。今、境区内では若者、あるいはグループによる会も発足し、少しずつ集落に活気が芽生えて来つつあります。そして、古くから伝わる伝承文化や各種行事、今まで培ってきた豊かな自然環境や財産を守りながら安全・安心な生活ができるよう努力をします。

他方、境区は米子市に隣接しているため交通の要衝となる環境を活かし、多様化・高度化する社会情勢に対し、少子高齢化・産業振興などにおいてお互いが知恵を出し合って世代間の交流を深めながら、活力のある集落づくりに取り組んで参りたいです。

第三十一回天津地区文化祭を開催

天津地区の文化の祭典、『第三十一回天津地区文化祭』が平成二十一年三月七・八日にふるさと交流センターで行われました。

七日(土)は午後一時から午後八時まで行われ、体育館では作品展示を、交流室では芝オケのポスター展示が行われました。

八日(日)は、午前九時から午後四時まで行われ、体育館では引き続き作品展示、健康コーナーでは物忘れ検診や味噌汁の試飲、血圧体脂肪測定などを行いました。

交流室では、引き続き芝オケのポスター展示や喫茶が行われ、その他の屋内では、似顔絵作成や漆喰ボール作成、藤かご作成、物販販売などが行われました。

屋外では、いか焼きやたこ焼き、焼鳥、綿菓子、ボン米などが販売されました。

文化祭のメイン、『第十四回天津交流ミニコンサート』は午後一時から午後三時まで体育館のステージで行われ、日頃からの練習の成果を十六団体が披露されました。全体では、約六百人の参加があり、例年にも増して今年も大いに盛り上がりました。

ご来場ありがとうございました。



天津地域振興協議会 人権研修

平成二十一年二月十九日(木)ふるさと交流センター交流室において、平成二十年度天津地域振興協議会人権研修を行いました。

今回は、役場町民生活課人権施策室人権擁護専門員の関さんと、南部町人権教育推進員の新井さんに来ていただき講演していただきました。

関さんには、人権の歴史や種類、身のまわりの人権と法律などについて詳しく話していただきました。新井さんには、体験談を基に同和問題から学んだことについて話していただきました。

最後に、簡単な人権問題理解度チェックを行い当日の復習を行いました。質問も多く出て、内容ある二時間となりました。



編集後記

最近、日本海新聞の「やまびこ」欄への南部中学校生徒の積極的な投稿に注目している。

その中の一人、Aさんの文章に「自分が選ぶ職業には資格取得が必要であり、その為に今は学力の向上に取り組む。もう一つは円滑な活動を営むために社会性を身につける必要がある。」との趣旨であったように記憶している。家庭・学校・地域社会において円滑な位置取りができる資質は「ルールを守ること」との意が文外に覗えました。



さて、掲載した写真は我が町の誇る「西伯病院駐車場」の標識ですが、近頃では標識を無視



した行動が見られます。「平然」「躊躇」の違いはあっても無くしたい恥ずかしい行いです。今号をもってはつかさん編集委員会の委員を代わります。

(種) 治孝・畠 稔明
畑中 昌美・秦 啓郎)